

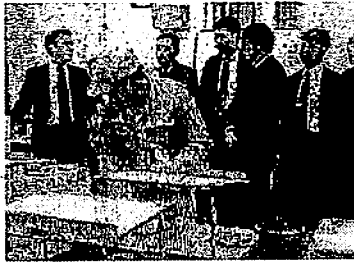
■大学キャラバン隊が来た！

3月5日に大学教職員、コーディネーター、行政関係者が組織する“大学キャラバン隊”が、日本理化学工業＝大山隆久社長、川崎市高津区久地2の15の10、☎044(811)4121＝を訪問した。

“大学キャラバン隊”とは、川崎市産業振興財団と連携する複数の大学関係者で、市内中小企業の現場を訪ね、顔の見える産学連携を推進する活動の一つ。今回、文部科学省科学技術政策研究所、日本医科大学、日本獣医生命科学大学、武蔵工業大学（現東京都市大学）、東京海洋大学、東京大学、キャンパスクリエイト（電気通信大学TLO）、よこはまティーエルオーなど28人の大学・行政関係者が参加した。

訪問先の日本理化学工業は、粉の出ない“ダストレスチョーク”で国内シェア30%を占めるチョーク（白墨）製造のトップ企業。2月に大山泰弘会長が第7回渋沢栄一賞を受賞するなど、知的障がい者の多数雇用でも全国的に知られている。

大山会長は講話で、50年前に知的障がい者受け入れを決意したエピソードや、交通信号をヒントにしたチョーク製造工程の工夫などについて述べ、工場見学では工程ごとに解説し、参加者は熱心に耳を傾けていた＝写真。



その後の意見交換では、同社が産学連携で開発した新型固形マーカー「キットパス」が窓ガラスに描けて簡単に消すことができることから、幼児の知育教材としての可能性について、参加した専門家からさまざまなコメントやアドバイスが寄せられた。大山会長は「大学の知恵をお借りしてキットパス用クリーナーを開発したい」と語っていた。

参加したメンバーは、課題などをそれぞれ大学に持ち帰り、共同研究・開発につなげたいとしている。

（情報提供・川崎市産業振興財団）

